

【第八回】

諸橋轍次記念

漢字文化理解力検定

二〇二五年十月五日

※解答は楷書で記すこと。なお、字体や仮名遣いが一般的なもの大きく異なる場合には、減点の対象とすることがある。

【問題一】（45点）

次に掲げるのは、「逝く者は斯くの如きか」という文章である。これを読んで、あとの問いに答えなさい。（問題作成にあたって、一部、文字遣いや文章を改めたところがある。）

今年もあと数日で幕を閉じることとなった。この間世間的にも或いは身边にも、いろいろの変化はあったであろう。例年新聞社や雑誌社などでは、年内の十大事件などという題目の下に、主なる事件を数えあげるが、今年は果たしてどんなことが挙げられるであろうか。それとは別に、各人もまた、それぞれの家庭の上にも事業の上にも、或いは修養の上にも心境の上にも、A幾多の変化はあったであろう。ある者は進歩し、ある者は退歩し、ある者は成功し、ある者は失敗する。すべてそれらについて、この機を利して一応の反省をすることはよいことだ。ただ、すべての人が今更の如く、一様に痛感することは、B月日の流れの早いことであらう。

「子、C川上に在りて曰はく、『逝く者は斯くの如きか、昼夜を舍かず。』と。」（論語、子罕）

孔子がいずれの日、いずれの川でこの嘆声を発せられたのか、それはわからないが、ともあれ、さる川べりに立って、昼となく夜となく、一息の止まることなき逝く水のさまを見て、歲月の流れも、また斯くの如しと嘆ぜられたのであった。

本来は、ただそれだけの単純な一時の①ジュツカイであったかも知れない。しかし見る人によつては、なお、いろいろにも解せられると思う。学問修養にいそむ若い人々にとつては、今が修業の大切な時だ。立德立功はむつかしい。②スインを惜しんで学に業に励むがよいとの戒めの言葉とも解せられよう。或いはまた③世故転変を経た年齢の人々にとつては、過去に払った自分の努力と、それに伴う世の評価とのくい違いから、暮年自ら顧みて、日月の去りやすく志業の遂げ難いことを嘆じたものとも解せられよう。それはそれでよい。古典は④畢竟読む人によつて違うものである。否読むというよりは、むしろ自分の真の姿を古典の鏡にうつせばよいのである。

水の流れはいろいろの教訓を含む。数年前横山大観画伯の「⑤ルテン」と題する絵を見たことがある。縦一尺余、長さ五、六間に及ぶ大作であった。山の木の葉がくれのしずくが、ポツリポツリと滴るうち、いつか知らず、それが小さい泉となる。泉がわき出て、それが小川のせせらぎとなる。小川が大河となり、大河が遂に洋々たる大海となる。その間岸辺を洗うサザナミもあり、天を衝く怒濤もあり、清浅梅花の影をやどす瀬もあれば、一碧明月の玉をたたえる淵もある。百丈の布引、千尋の瀑布、D千態万様、さすがに巨匠苦心の大作であった。画伯はこれによって、恐らく人生ルテンの姿を現そうと考えたであろう。

孔子の生涯を考えてみると、五十五、六歳から六十八、九歳までの約十四、五年間は、天下周遊の時代であった。朝に斉に行き、夕に楚に遊ぶ。E席暖まる暇もなく、各国の⑥シヨコウを説きまわった。その数は実に七十二君の多きに及んだという。その間済世救民の赤誠と熱情をもって道を説きまわったが、F極度に混乱した当年の世情は、容易に孔子の言を用いない。陳蔡の地においては⑦サイヤクに遭い、匡においては悪者どもに脅かされ、累々として G の如くあわれな姿でさまよいながら、暮年、晋国に趙簡子を訪ねに出かけた。せめてこの人によって道を行わんとしたのである。しかしその時もまた、ただ一つの頼りとしていた同国の賢大夫竇鳴犢・舜華の二人が、故なくして殺されたとの悲報を聞いたので、⑧一縷の望みもここに絶えた。この上は旅を続けても益がないと河に臨んで、

「美なるかな、洋々乎たり。丘（孔子の名）の済らざるも、これ命なり。」（孔子家語、困誓）
との嘆声を残して帰途についた。当時孔子のH胸裏に去来したものは、果たして何であったか。世の治乱、国の興亡、人生の⑨寵辱得喪、その他くさぐさの事ではなかったか。

『論語』の中で水に関する孔子の言葉は右の外一、二に過ぎないが、I『孟子』を見ると、孔子がしばしば水を讃えていることが述べられている。そしてその理由は、水が源泉混々として昼夜を舍かず、不断の活動が続けていること、水の運行が、石あれば石をさけ、穴あれば穴を埋めて進むごとく、常に序を追ひ無理をさけていることなどの点を挙げている。もとよりJ聖人の心を知る立派な解釈であろう。

さらに考えて見れば、孔子は水に関して更に一層の深意を⑩グウして居ったかも知れぬ。水の行動には詐りが無い。上のものは必ず下に流れ、高いものは必ず低きにつく。これは水の誠と見れば誠である。かつまた上來述べたごとく、この水の活動には一息

の止まるところがない。「至誠息むこと無し」である。水は天地の間に満ちて、人類の外、禽獸草木を養う根本の力となっている。宇宙の万物、果たして水なくして、その生を保ち得るものが他にあらうか。この偉大なる力は、すなわち水の誠の力であって、いわゆる「K至誠にして動かざる者無し」である。人生のあらゆる経験を知り尽くし、宇宙の道体すなわち道の本来の姿を体得した孔子の眼からすれば、或いは水の流れは、単なる水の流れではない、道体そのものの姿としてうつったかもしれない。されば私共もまた、歳晚、月日の推移をかこつと共に、誠の道の不息の力に一考するもよいことだと思う。

(『諸橋轍次著作集第十卷』大修館書店、一九七七年による)

問1 傍線部①～⑩について、カタカナは漢字に直し、漢字はその読み方をひらがなで書きなさい。(各2点)

問2 波線部A「幾多」は、いわゆる「湯桶読み」である。「湯桶読み」の語を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。(2点)

ア 夕刊 イ 座敷 ウ 仕事 エ 台所

問3 波線部B「月日の流れの早い」と同意の文を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。(2点)

ア 月満つれば則ち虧く(史記、蔡沢伝)

イ 月明らかに星稀なり(曹操、短歌行)

ウ 光陰箭の如し(禅門諸祖偈頌)

エ 光陰は百代の過客なり(李白、春夜宴桃李園序)

問4 波線部C「川上」の意味として適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。(2点)

ア 川流 イ 河畔 ウ 上流 エ 源流

問5 次の説明を参考に、波線部D「千態万様」と同じ構造の熟語をあとの選択肢から一つ選び、記号で答えなさい。(2点)

「千態万様」は、「千」と「万」、「態」と「様」がそれぞれ意味が通じ合っている。「千態万様」は、「千万態様(千万の態様)」(種々様々な状態)の四字の配置を変えたもので、意味に違いはない。「東奔西走」「千変万化」「天長地久」も同様で、いずれも「東西奔走(東西に奔走す)」「千万変化(千万に変化す)」「天地長久(天地は長久なり)」のように四字の配置を変えたものである。このような熟語の構造を互文と呼ぶ。

ア 上意下達 イ 上下一心 ウ 上下関係 エ 上和下睦

問6 波線部E「席暖まる暇もなく」の意味として適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。(2点)

ア 公務に忙しく、家でゆっくり飲食することがまれなこと。
イ 多忙で、ひと所に落ち着いている暇もないほどであること。
ウ 生活が苦しくて、家の中を暖める経済的な余裕がないこと。
エ 序列が厳しい朝廷では、同じ席には長く座ってられないこと。

問7 波線部F「極度に混乱した当年の世情」とあるが、孔子は何時代の人か。次の中から一つ選び、記号で答えなさい。(2点)

ア 伝説時代 イ 春秋時代 ウ 戦国時代 エ 三国時代

問8 空欄Gに適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。(2点)

ア 喪家の狗^{いぬ} イ 虎の威を仮^かる狐 ウ 汗血^{かんけつ}の馬 エ 釜中^{ふちゅう}の魚

問9 波線部H「胸裏」の「裏」は、『大漢和辞典』ではどの部首に分類されているか。部首名をひらがなで書きなさい。(3点)

問10 波線部I「『孟子』を見ると」とあるが、孟子その人と縁の深いものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。(3点、完答)

ア 庭の訓え イ 孔孟の教え ウ 三遷の教え エ 覆車の戒め オ 履霜の戒め カ 断機の戒め

問11 波線部J「聖人」の「聖」の部首を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。(3点)

ア 耳 イ 口 ウ 王 エ 壬

問12 波線部K「至誠にして動かざる者無し」の意味として適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。(2点)

ア この上なく知徳の優れている人でも、人を感動させないことがある。

イ きわめて誠実であれば、天を動かさないことはない。

ウ 知徳がたいへん優れている人は、何があっても動じることではない。

エ 最高の真心をもってすれば、人は必ず感動する。

【問題Ⅱ】（20点）

漢字や漢語、漢字文化に関するあとの問いに答えなさい。

問1 次の①～③には、使い方が正しくない漢字がそれぞれ一つずつ含まれている。例にならって正しい漢字に改めなさい。（各2点）

〔例〕俳句の季語を、才時記を使って調べる。 〔解答〕才 ↓ 歳

①会社の存続のため、苦汁の決断を下して買取提案を受け入れる。

②人陰もまばらな深夜の街を、足音を忍ばせて歩く。

③長期にわたる紛飾決算が、遂に白日の下に曝された。

問2 次の①～③に当てはまるものをそれぞれの選択肢の中から一つ選び、記号で答えなさい。（各2点）

①「円高」を「えんだか」と読むように、一文字目を音読みで、二文字目を訓読みで読む、いわゆる「重箱読み」をするもの

ア 役柄 イ 家柄 ウ 縞柄 エ 話柄

②「釈迦」のように、もともとは古代インドのことばに対して、中国語で当て字をしたもの

ア 零落 イ 奈落 ウ 洒落 エ 群落

③「色紙」は音読みでは「しきし」、訓読みでは「いろがみ」と読めるのと同じように、それぞれの漢字を音読みでも訓読みでも読めるもの

ア 便宜 イ 工場 ウ 平地 エ 音色

問3 次に掲げる四つの四字熟語の空欄に入る漢字を組み合わせると、ある四字熟語ができる。その四字熟語の意味として最も適

切なものをあとの選択肢から一つ選び、記号で答えなさい。(2点)

弱□強食 徹□徹尾 鶏鳴□盜 多岐亡□

ア 最初は勢いがよいが、最後は勢いがなくなってしまうことのたとえ。

イ 見かけは立派だが、中身がそれに伴わないことのたとえ。

ウ すぐれた人のまねをして、かえって見劣りがしてしまうことのたとえ。

エ 実際にはそんな力はないのに、威勢がいいことを言うこと。

問4 次の選択肢の中から、『論語』のことばではないものを一つ選び、記号で答えなさい。(2点)

ア 君子は義に喻り、小人は利に喻る。

イ 三年、父の道を改むること無きは、孝と謂ふべし。

ウ 柔弱は剛強に勝つ。

エ 巧言令色、鮮きかな仁。

問5 次の選択肢の中から、誤りを含むものを一つ選び、記号で答えなさい。(2点)

ア 『十八史略』は、元王朝の時代に編纂された、中国の十八種類の歴史書の内容をコンパクトにまとめた書物である。

イ 『唐詩選』は、唐王朝の時代に編纂された、約四百七十首の唐詩を集めた書物である。

ウ 『説文解字』は、後漢王朝の時代に編纂された、九千三百字以上の漢字の字形や字義を説明した書物である。

エ 『文章軌範』は、宋王朝の時代に編纂された、約七十編の有名な漢文の文章を集めた書物である。

問6 次に掲げるのは、『万葉集』に収録されているある歌を、漢字仮名交じりと万葉仮名とで記したものである（『新日本古典文学全集万葉集四』岩波書店、二〇〇三年による）。空欄①②に入る文字として最も適切なものを、それぞれの選択肢の中から一つ選び、記号で答えなさい。（各1点）

防人^{さきもり}に 行くは誰^たが背と 問ふ人を 見るがともしさ 物思^{もの}ひもせ ①

佐伎毛利^{さきもり} 由久波多我世登 刀布比登乎 美流我登毛 ② 佐 毛乃母比毛世受

① ア ぬ イ む ウ じ エ ず

② ア 仁 イ 之 ウ 州 エ 止

【問題Ⅲ】（15点）

国字（日本で作られた漢字）・国訓（日本で作られた字義）の類について、あとの問いに答えなさい。

問1 「腺」という字は、蘭学者が人体の器官を書き表すために作りだし、使われてきた漢字、つまり国字である。

（1）この字が作られた時代を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。（2点）

ア 鎌倉時代 イ 室町時代 ウ 江戸時代 エ 明治時代

（2）この「腺」とともに生みだされた、ある臓器を表す国字の音読みはどれか、①次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

また、②それを漢字に直して書きなさい。（①2点、②3点）

ア スイ イ ハイ ウ カン エ ジン

問2 食品名のほか店名、姓や地名などにおいて「鮓」という字が見られる。

（1）この字の一般的な訓読みは何か。カタカナで書きなさい。（2点）

（2）「鮓」と同じ国訓をもつ魚偏の漢字を一つ書きなさい。（3点）

問3 次の選択肢の中から、和語に対する漢字表記が音読みで読まれるようになった和製漢語（日本で作られた漢語）を一つ選び、

記号で答えなさい。（3点）

ア 火力 イ 火事 ウ 火薬

【問題Ⅳ】（15点）

漢字の形・音・義について、あとの問いに答えなさい。

問1 漢字の形・音・義に関する次の問いについて、それぞれ適当なものを語群の中から選び、記号で答えなさい。（各3点）

(1) 「崎」と「崎」のように、発音と意味とが一致し、字形のみが異なる字のことを何と呼ぶか。

(2) *「女」(おんな)を「汝」(あなた)の代わりに使うように、発音が同じ、あるいは類似することを利用して、同じ字形を使って別の言葉の意味を表す用字法を何と呼ぶか。
*便宜上日本漢字音で表す。

(3) もともと(もえる)という意味だった「然」字は、(しかり<そうである>)という意味でも用いられるようになった。そのため、両者の意味を区別するために新たに(もえる)という意味の「燃」字が作られた。このように、同じ字形が複数の意味を担うようになった場合、字形を変えることによって意味の区別を容易にすることがある。この「然」と「燃」のような関係にある漢字の組み合わせのことを何と呼ぶか。

(4) 「濁、觸也。言萬物皆觸死也。」(濁は、觸なり。言うところは、萬物皆な觸れて死すなり)のように、漢字の発音が同じ、あるいは類似することを利用して、意味や語源を解釈する方法を何と呼ぶか。

(語群)

ア	声訓	イ	転注	ウ	仮借(通仮)	エ	反訓	オ	聯綿字	カ	古今字	キ	異体字	ク	反切
ケ	互訓	コ	同義換読	サ	右文説	シ	直音	ス	形声	セ	引伸	ソ	統言・析言	タ	破読

問2 日本漢字音には、大きく三系統(呉音・漢音・唐音)がある。これは、日本への伝来時期と、伝来元である中国の地域の違いによって生まれたものである。次の熟語の中で、別の系統の漢字音を用いた混ぜ読みをしているものを一つ選び、記号で答えなさい。(3点)

ア	緞子(ドンス)	イ	兄弟(キョウダイ)	ウ	言語(ゲンゴ)	エ	気力(キリョク)	オ	行脚(アンギヤ)
---	---------	---	-----------	---	---------	---	----------	---	----------

【問題Ⅴ】（5点）

諸橋轍次の生涯や業績について、あとの問いに答えなさい。（各1点）

問1 諸橋轍次が座右の銘としていた「行不由径」は、中国古典に由来するものである。その古典文献の題名を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 論語 イ 書経（尚書） ウ 孝経 エ 孟子 オ 莊子 カ 老子

問2 諸橋轍次が学長を務めたことのある大学を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 国士舘大学 イ 都留文科大学 ウ 法政大学 エ 駒澤大学 オ 大東文化大学

問3 諸橋轍次は、幼いころに母が読み聞かせてくれた物語に大いに想像力を掻き立てられたという。その物語とはいわゆる中国四大奇書の一つであるが、その題名を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 三国志演義 イ 水滸伝 ウ 西遊記 エ 金瓶梅

問4 諸橋轍次は、数え年五歳の時から、村の小学校教師であった父の安に素読（漢文の暗唱）を授けられた。その際に使用した教科書は、「人の初め、性は本善」から始まるものであった。この教科書の名前を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 三字経 イ 小野篁歌字尽 ウ 千字文 エ 実語経

問5 諸橋轍次の博士論文題目を、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 玉篇の研究 イ 左伝の成立と其の展開
ウ 元明小説史の研究 エ 周代文化の研究 オ 儒学の目的と宋儒の活動